

3. 農村の男女共同参画とポジティブアクションの評価と課題

[要約]農村における男女共同参画のためのポジティブアクションを評価する際、名目的数値では把握されない女性の発言力等を把握するため、推進担当者の評価を用いることが有効である。その評価に基づいて、推進方策を提案できる。

農業工学研究所・農村計画部・部長室		区 分	技術及び行政
連絡先	029-838-7509, kudo@affrc.go.jp	分 類	参考

[背景・ねらい]

急速な少子高齢化の進展や女性の地位の低さを背景に、農村においても、男女共同参画の実態把握や推進方策の検討が行われている。共同参画の現状分析にはG E M指数（Gender Empowerment Measure）等が用いられるが、農村ではこうした名目的な数値では把握されない女性の発言力や参画意識の形成等を考慮する必要がある。本課題では、より効果的な男女共同参画の推進方策を探るために、これを推進する地方自治体担当者による評価を調査・分析した。

[成果の内容・特徴]

1. 共同参画指標を考慮して選定した 14 県全市町村（982 市町村）を対象に、共同参画の現状、ポジティブアクション（広く男女共同参画施策を対象、以下P A）の実施状況、推進担当者からみた共同参画の現状把握や評価（5段階評価）のアンケート調査を実施した（回収数 523 市町村、うち欠損値を除く 357 市町村（36.4%）を使用）。
2. 推進担当者の評価を、P Aの有無、P Aの有無によって変化する共同参画度や地域・社会環境との関係性から明らかにした（表1）。農村女性起業数や認定農業者の女性比率は、女性の発言力や登用への意識向上の評価の高さと強く関係し（207.701、139.236、128.297、9.144）、共同参画の推進方策として、女性が起業家や農業者として地域農業・社会に関わる方向性が示唆される。また、農業就業人口の女性比率をみると、地域や地区における女性の意見反映は負の値（-4.098、-5.426）を、登用への女性の意識向上は正の値（1.704）を示している。この結果から、女性自身の意識を高めることにおいては、女性自身の意識改革に関わるP Aが重要といえるが（女性比率が高いため）、実際に女性が発言力を発揮させるためには、男性に理解されることが必要（男性比率が高いため）と推察される。
3. 推進担当者の挙げる推進上の課題と評価の違いとの関連性を分析した（表2）。女性の発言力の形成や登用意識の向上に対する評価が低い市町村では、男女ともに共同参画の理解や意識を高めることがより重要であること、また、女性登用について男性の理解に対する評価が低い市町村では、推進体制を整えることがより重要となっており、男性に向けたP Aを検討する必要性も示唆される。

[成果の活用面・留意点]

共同参画の現状と合わせて、推進担当者の評価から、共同参画促進の課題の把握や、実効性のある推進方策の検討に向けた活用が期待される。

[具体的データ]

表1 推進担当者の評価に与えるPA、名目指標、地域・社会環境との関係性

	農業委員会や議会等、地域の政策・方針決定の場で、女性の意見が反映されるようになった 係数	集落や部会等、地区の方針決定の場で、女性の意見が反映されるようになった 係数	女性の登用について、女性自身の意識が高まった 係数	女性の登用について、男性の理解が得られるようになった 係数
PAダミー（1＝PAあり）				-1.719 **
名目指標				
議会議員の女性比率＊PA	8.475 ***	3.850 **		
農業委員の女性比率＊PA	14.237 ***		7.474 ***	5.812 ***
認定農業者の女性比率＊PA		9.144 ***		
農村女性起業／総農家女性世帯員数＊PA	207.701 ***	139.236 **	128.297 *	
地域・社会環境				
農家の高齢化率＊PA	6.036 ***	8.143 ***		6.640 ***
農家率＊PA	1.762 **	1.192		
農業就業人口の女性比率＊PA	-4.098 ***	-5.426 ***	1.704 **	
農業産出額の作目別比率				
畜産＊PA	-1.093 *			
定数項1	0.001	-0.586	-0.022	-1.232 ***
定数項2	1.661 ***	1.585 ***	1.799 ***	0.641
サンプル数	351	352	353	354
対数尤度	639.658	686.102	687.536	661.132
モデルの適合度（Pr>chi2）	0.000	0.000	0.000	0.000
疑似決定係数	0.276	0.120	0.093	0.068

注1)分析は、順序ロジット分析により行った。従属変数は、推進担当者の評価であり、低評価（1＝思わない・あまりそう思わない）、中評価（2＝どちらともいえない）、高評価（3＝ややそう思う・強くそう思う）の3つの選択肢をとるものとした。説明変数は、①男女共同参画の名目指標（議会議員0.075、農業委員0.049、農業経営者0.067、認定農業者0.024、家族経営協定0.015、農村女性起業0.001）、②地域・社会環境（農家率、専業農家率、農家高齢化率、女性農業就業人口率、農業者1人当りの生産農業所得、農業産出額の作目別比率）であり、それぞれにPAの有無を乗じ、③PA単独のダミー変数を投入した。分析対象の357市町村のうち、PA未実施の市町村は18市町村である。

注2) ***は1％水準、**は5％水準、*は10％水準で、有意である。

注3)本文中で指摘した、係数が大きいなど、結果の意味として、注目される事項について、太枠で囲った。

表2 推進担当者による男女共同参画の評価と推進の困難性

単位：％

	農業委員会や議会等、地域の政策・方針決定の場で、女性の意見が反映されるようになった		集落や部会等、地区の方針決定の場で、女性の意見が反映されるようになった		女性の登用について、女性自身の意識が高まった		女性の登用について、男性の理解が得られるようになった	
	高評価の市町村	低評価の市町村	高評価の市町村	低評価の市町村	高評価の市町村	低評価の市町村	高評価の市町村	低評価の市町村
課内の体制が整っていない	23.9	24.6	23.6	25.9	26.0	21.4	29.6	17.9
推進するノウハウがない	33.0	32.4	32.6	31.8	33.2	31.7	35.5	29.2
議会の理解が得にくい	1.9	1.4	1.9	1.2	2.4	0.7	2.7	0.6
男性住民の理解度や意識が低い	45.5	34.5	44.9	28.2	40.4	42.1	45.2	36.3
女性住民の理解度や意識が低い	46.9	43.7	48.3	36.5	51.0	38.6	43.5	48.2
地域の伝統的な慣習が強い	45.0	45.1	44.2	49.4	42.3	50.3	46.2	44.6
特になし	9.1	12.0	8.6	14.1	7.7	13.1	6.5	14.3

注1) 数値は、評価の高い市町村と低い市町村の回答の比率を示している。評価の高い市町村は、「5段階評価の「1」 思わない」、「2 あまりそう思わない」、「3 どちらともいえない」を、評価の高い市町村は、「4 ややそう思う」、「5 強くそう思う」である。

注2) 評価の高い市町村と低い市町村の回答比率の差に、5％以上の統計的な有意差があったものを、太枠で囲った。

[その他]

研究課題名：女性・高齢者の活動促進による地域活性化効果の解明

中期計画大課題名：農村集落が持つコミュニティ機能の評価手法の開発

予算区分：交付金研究・その他（受託）

研究期間：2004～2005年度

研究担当者：藤本保恵、工藤清光

発表論文等：1) 藤本保恵・八木洋憲，自治体による男女共同参画の評価と地域・社会特性—農村における男女共同参画とポジティブアクションの自治体調査から—，農村計画論文集，第7集，pp.181－186，2005。
2) 藤本保恵・八木洋憲，農村における男女共同参画とポジティブアクションの関係性，2005年度日本農業経済学会論文集，pp.326－333，2006。